

令和6年度

帰国生入学試験問題

国語

(50分)

注意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 問題用紙および解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」「（）」などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 5 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 6 試験終了の合図でやめること。

東京都市大学等々力中学校

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一 次の――線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、彼は武道の達人だ。
- 2、バスの乗降口に並ぶ。
- 3、胸筋を鍛える。
- 4、朗報が舞い込む。
- 5、彼の態度は幼い子どものような。
- 6、ウチユウステーションで生活する。
- 7、ホシユ的な考え方だ。
- 8、セキニンを追及する。
- 9、タントウ直入に質問する。
- 10、カイコを育てる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

山辺啓はかつてサッカーに打ち込んでいたが、今は高校を中退し、深夜のアルバイトをしている。仕事を終えて帰宅する早朝、ジョギングをする女を見かけた。

女の騎手が走っていた。

馬の背に跨るのではなく、自分の足で走っていた。

競馬場のコースではなく、公園沿いの歩道を走っていた。

女の騎手、新川奈津に山辺啓が出会ったのは、今から一ヶ月前のことである。

その日、啓は朝早くから街を歩いていた。荷物は肩から提げたバッグ一つ。街の空気は凛と引き締めぬくもりに乏しかったが、そろそろ梅雨も明ける時期である。ジーンズにシャツを合わせただけの軽装でも、啓が寒さをおぼえることはなかった。

啓の周囲に人影はない。ほとんど車も通らない。先刻まで闇に輪郭を溶け込ませていた街並みは、すでにその姿を浮かび上がらせている。とはいえ街が目覚めるにはもう少し時間が必要だった。

啓の進路に公園が現れる。中には入らず、沿うようにして延びる歩道を啓は進んだ。公園を囲む木々には夏になると騒がしいセミが所狭しと張り付く。だが、今は生き物の気配が絶えていた。生い茂る葉の先を透かし見ると、背もたれのないベンチが置かれている。座っている者は誰もいない。

啓の表情が陰しくなる。一人だった。寂しくはない。悲しくもない。しかし無人の街を歩くことは、世の中と自分のずれを啓に強く意識させた。自分が社会のレールから外れていることを、痛いほどに実感させた。

道の先から女が現れたのは、そんなときである。

女は走っていた。服装は上下とも赤のジャージで、靴は白い。女が走り、啓が歩く。ふたりの距離が近づく。啓は十九歳になったばかりだが、女も似たような年頃に見えた。

ダイエット目的で走っているのだろうか。

それともトレーニングとして走っているのだろうか。

啓が推理を働かせるうちに、ますます女がそばに迫る。

啓は違和感をおぼえた。女の走り方にある。右腕に比べ、左腕の振りが極端に小さい。脚の運びは軽やかで、背筋もまっすぐ伸びている。おそらく女は運動神経がいい。それなのに、左腕の使い方だけが妙にぎこちない。

女が走り、啓が歩く。お互い道の右側を進んでいる。女が啓に最接近する。通り過ぎる。

「おい」

振り返り、啓は女に声をかけた。

「腕、怪我しているんじゃないのか」

続けてたずねた。静かな街はよく声が通る。女は足を止めた。

「左腕だ、左腕。左腕の振りが変だったから、そう思ったんだが……」

説明を付け足しながら、啓は①己の発作的な行為を悔やんだ。女は左腕を怪我している。それは間違いないと思う。怪我を庇うから腕の振りが不自然になるのである。だが、どうして通りすがりの男が、そんなことを指摘しなくてはならない。余計なお節介もいところだろう。

女が振り返る。眉は太いほうで、くりっとした目をしていた。美人というより、愛嬌のある顔立ちである。垢抜けてはいないが、黒髪

のショートカットがよく似合っている。

予想通り、女の顔には困惑の色が浮かんでいた。啓の心がさらに沈む。このまま怪我の話を続けるにせよ、話を切り上げ謝るにせよ、気まずい時間を強いられるのは確実だった。

「はいつ、折れてます！」

突如、女は明るく言い放った。② 面食らう啓との間合いを無造作に詰める。

「見てください」

女は左腕の袖を勢いよくまくった。白い肌よりさらに白い包帯が、二の腕辺りに巻かれている。

「尺骨、つていう骨が折れたんです。だけど回復は順調で、痛みはすっかり引きました」

「骨折しているのに、どうしてトレーニングをするんだ」

ダイエット、という真つ先に思いついた女の走る目的を、啓は頭から消していた。女は間近で見ると華奢である。ダイエットの必要があるとは思えない。

「痛みが引いても、じっとしていなければ駄目、つてことですか」

頭の回りは早いようで、女は会話を先読みするような発言をした。

「大丈夫です。腕は使わないようにしていますから。それにジョギングくらいしないと、体力が落ちちゃいます」

③ 大丈夫じゃない」

断言すると、啓はスポーツ選手のリハビリについてレクチャーした。故障した選手のパフォーマンスが落ちる原因として、誰もが思いつくのが体力の低下である。しかしそれと同じくらい問題となるのが、身体のバランスの崩れである。

「たとえば脚を怪我すれば下半身がなまる。けれど上半身は下半身ほどなまらない。結果的に身体のバランスが崩れる」

「……………」

「脚を怪我したサッカー選手がいたとする。ボールを蹴れない。走れない。焦るあまり、なにかをしなければと強迫観念からアれる。だからといって、そこで上半身を鍛え抜いたとしたら、どうだ。サッカー向きの身体を作ることができると思うか。筋力のダウンする下半身と、逆に筋力のアップする上半身。バランスは完全に崩壊する」

「なるほど、です」

女は大きく頷いた。

「私の場合、焦って脚を鍛えても逆効果、というわけですね」

「そうだな」

「トレーニングのメニューは要再考と。了解です。ところで……」

じつに素直に啓の話聞いていた女が、ここでようやく首をかしげた。

「お兄さん、凄くリハビリに詳しいですね。ひよっとしてお医者さんの卵とか」

「まさか」

啓は笑った。女の推理は的外れにもほどがある。

「だったらお兄さん、スポーツをされているんですか」

「え？」

続く女の推理に啓が表情を強張らせる。

「あ、凶星ですね。じつは私も……」

首の角度を戻した女は、それから④一方向的に自己紹介を始めた。街の端に広い川が流れていて、その先に古くから続く競馬場がある。国が運営する『中央競馬』と違い、市が運営する『地方競馬』の競馬場だった。女、新川奈津はその騎手だという。デビューしたのは今年の春で、年齢は啓と同じ十九歳。

半月前、競走馬の調教中に落馬をして、腕の骨を折った。デビュー以来、何度か実戦を経験しているが、まだ勝ち星は挙げていない。そこまで話を聞いたところで、啓は奈津と別れた。運動後はクーリングダウンが不可欠。そう考えた啓が話を遮り、しばらく歩くよう勧めたためである。奈津はよほど話し好きらしく残念そうな顔をしたが、すぐに領くと元気な足取りで橋の方向へ歩いていった。

そして翌日、啓は奈津と再会した。場所は前日同様、公園沿いの歩道である。

「トレーニングではなく、ダイエットです」

笑ってそう話す奈津は、ジョギングではなくウォーキングの最中だった。痩せる必要があるのかと啓は訝^(注と)ったが、騎手にとってダイエットはライフワークであるらしい。

次の日も啓は奈津と会った。競馬の世界は朝が早く、冬以外は午前四時に起床して調教を始めるという。本来なら奈津もそれに参加するのだが、片手でできる仕事は限られる。だからウォーキングをする暇が生まれる^ウらしかった。

「啓くんも毎朝大変だね」

この日から、奈津はそんなふうに啓を呼ぶようになった。

その後も二人は頻繁に顔を合わせた。時刻はいつも早い朝。啓は会うたびに奈津と他愛ない話を交わした。競馬場に隣接した厩舎街で暮らしていることを聞いた。競馬学校での二年間の厳しい生活について聞いた。その競馬学校に入るために一浪したことを聞いた。故郷が競馬と無縁の地であることを聞いた。たまたま見たテレビ中継で騎手に憧れたことを聞いた。騎手になることを親に反対された話を聞いた。

「でも、今は応援してくれているんです」

だから頑張らないと。そう。決意の表情で語ったとき、奈津の朝の運動はウォーキングからジョギングに戻っていた。

「ひどい入れ込みだ」

知れば知るほど。ひたむきな奈津を、啓はそんなふうにはなかった。入れ込むという言葉は、夢中になるという意味で一般的には使われる。

しかし競馬の世界では、興奮しすぎて力を浪費することを、入れ込んでいると表現する。先日、試しに少し視聴した競馬中継で啓はそのことを知った。

「ま、お前はそれでいいと思うがな」

返事を聞く前に語を付け足すと、啓は自動販売機でスポーツドリンクを買った。奈津の生き方は健全で力強く、直接関係のない自分まで清々しい気持ちにさせられる。⑦ 応援したかった。スポーツドリンクを渡すと、鼻の頭に汗の粒を浮かべた奈津は嬉しそうにそれを飲んだ。

「それじゃあね、啓くん」

そして二人はこの日も別れた。颯爽と腕を振って走る奈津の姿は、怪我の完治を如実に物語っている。リハビリを兼ねた早朝トレーニングはもうすぐ終わる。

(松樹 剛史「きみはジョッキー」より)

(注1) 「無体な」……無理なこと。

(注2) 「訝った」……疑わしく思った。

(注3) 「厩舎」……競馬においては、調教師が管理する施設・設備の総称。

(注4) 「一浪」……受験に失敗した後、再度受験するために一年間準備をすること。

問一、——線①「己の発作的な行為を悔やんだ」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

突然見知らぬ男に声をかけられた女が

1、二字

 し、

2、六字

 が流れると思ったから。

問二、——線②「面食らう」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、怪我をしているかもしれないと半信半疑で声を掛けたにも関わらず、その怪我についてのアドバイスを求められたから。

イ、怪我をしているかもしれないと半信半疑で声を掛けたにも関わらず、予想通り怪我をしていたから。

ウ、声を掛けたことを後悔し、逃げ出そうかと考え始めていたところ、愛嬌のある顔に心を奪うばわれたから。

エ、声を掛けたことを後悔し、逃げ出そうかと考え始めていたところ、意外にも明るい声で返事をされたから。

問三、——線③「大丈夫じゃない」とありますが、それはなぜですか。その理由を、「焦る」・「バランス」・「逆効果」という言葉を使って五十字以内で答えなさい。

問四、——線ア～エ「れる」のうち、はたらきが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問五、——線④「二方向的に自己紹介を始めた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、奈津は自分がやりたいことをなかなかできない中で、やっと話し相手を見つけたから。

イ、奈津は初対面の相手でも恥ずかしがらずに会話ができるほど話し好きな性格だから。

ウ、啓の顔が強張っていたので、奈津は啓を不安にさせないために明るく振舞おうとしたから。

エ、推理が当たったことで奈津は自信をもち、自分の経歴を自慢したくなったから。

問 六、——線⑤「決意の表情」とありますが、それはどのような「決意」ですか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

今では応援してくれている親のためにも、怪我が

1、一字

したら

2、三字

をあげようとする決意。

問 七、——線⑥「ひたむきな」とありますが、ここではどのような意味ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、世間知らずでなんでも受け入れるさま。

イ、一つの物事だけに心を向けているさま。

ウ、不安を隠して強く振舞っているさま。

エ、自信をもち他人の意見を受け入れないさま。

問 八、——線⑦「応援しなかった」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、愛嬌のある顔立ちをした奈津のことがいつの間にか好きになってしまったから。

イ、自分のアドバイスのおかげで奈津のリハビリがうまくいったと思ったから。

ウ、自分とは異なり、全力で取り組むことを持っている奈津に魅力を感じたから。

エ、競馬中継を見て競馬に興味をもち、騎手としての奈津の活躍を見たくなったから。

問九、この文章の表現の特徴として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、奈津と出会う前は、社会のルールから外れた生き方をする自分自身に対する啓の思いが情景描写を通して表されている。奈津と出会う前は、奈津の健全な生き方に対する啓の思いが奈津との交流を通して表されている。
- イ、奈津と出会う前は、社会のルールから外れた生き方をする自分自身に対する啓の思いが情景描写を通して表されている。奈津と出会う前は、怪我をした奈津に同情する啓の優しさが奈津との交流を通して表されている。
- ウ、奈津と出会う前は、社会に不満を抱え他人との関わりを避けて過ごしている啓の生活が情景描写を通して表されている。奈津と出会う前は、奈津の健全な生き方に対する啓の思いが奈津との交流を通して表されている。
- エ、奈津と出会う前は、社会に不満を抱え他人との関わりを避けて過ごしている啓の生活が情景描写を通して表されている。奈津と出会う前は、怪我をした奈津に同情する啓の優しさが奈津との交流を通して表されている。

〔三〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

幕府は倒された？

皆さんは「幕末」と言ったとき、どんなイメージを思い浮かべますか。西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允の「維新の三傑」でしょうか。それとも、坂本龍馬などの志士と言われる人々の活躍でしょうか。彼らは「倒幕」（討幕とも書きます）によって新しい日本をつくろうとしたとよく言われます。幕末と言えば「倒幕」というように、薩長の指導者たちが、時勢に対応できない幕府を倒して明治維新という革命を成功させたというストーリーは、お馴染みではないでしょうか。

しかし、^X幕府は本当に薩長に倒されたのでしょうか。ちよつと奇抜な問いに思われるかもしれませんが、これは幕末史を考えるうえで重要な問いだと私は考えているのです。まず、基本的な点を押さえておきましょう。歴史学の専門研究では、薩長による組織的な倒幕計画が現れるのは、慶応三（一八六七）年の六月ころと考えられています。その約四カ月後に徳川慶喜の有名な大政奉還がありまして、^①倒幕派は準備していた軍事行動を中止して、戦略の練り直しを迫られました。つまり、倒幕をやるうと思っただけで、肩すかしを食ったということです。

慶喜の大政奉還は、薩長による倒幕への圧力を受けてのことであることは間違いありません。しかし、その一方で、慶喜は一時的方便で政権を手放したわけでも、再び大政を委任されることを期待したわけでもありませんでした。慶喜はそれから一〇日後に、朝廷に征夷大將軍の辞職も願っています。朝廷はしばらく保留しますが、將軍をやめるということは、徳川は単なる一大名になることを意味します。

そして、幕府自体は、それから約一カ月半後の二月九日の王政復古の大号令（西暦一八六八年一月三日）によって、朝廷の摂関制度などと一緒に廃止されました。学界では王政復古クーデターとか、王政復古政変などと呼ばれます。その理由は、倒幕派と言われる薩摩の西郷や大久保、公家の岩倉具視たちが筋書きを書き、薩摩・土佐以下五藩の兵隊を動員して、禁裏御所（天皇のいた御所）の御門を封鎖し、若い天皇を担いで新政府を強行樹立したからです。この王政復古の大号令で幕府が廃止されたことから、クーデターは「倒幕」とイコールで考えられたりします。

^A、近年の研究成果によれば、このクーデターは、すでに政権を放棄している慶喜、つまり幕府の打倒を目的に行ったものではありませんでした。朝廷を改革し、天皇を中心とした、「公議」（公家や大名・藩士たちの意見）に基づいて政治を行う政府を樹立することが最大の目的でした。慶喜が大政奉還を行った段階で、政治社会の関心は、朝廷を中心にかなる政府をつくるか、また誰が主導権をとるか、という点に移行しているのです。

その約一カ月後に起こる鳥羽・伏見戦争も、幕府の復活か、倒幕かが争点ではなく、「ポスト幕府」のあり方をめぐっての争いです。末端の兵士は別にして、^②慶喜と側近は、幕府を復活させる目的で戦ったとは言えないのです。

「倒幕」の一人歩き

B、倒幕のための計画や準備は、幕末の最終段階に存在したけれども、軍事発動は結局ないまま、幕府は勝手に消滅したことになるので。しかも、倒幕運動が存在したのは、極めて短い期間でした。ペリーが浦賀に來航したのが嘉永六（一八五三）年で、そこから王政復古の令まで約一五年あります。その大号令のわずか半年前に現れた「倒幕運動」でもって、幕末を **I** するのは正しいのでしょうか。残りの一四年半はどうなるのでしょうか。

そういうと、皆さんの中からは、慶応三年よりも前から倒幕の動きはあったのではないかと疑問が出てくるかもしれません。坂本龍馬が仲介したとされる有名な薩長同盟（学界では薩長盟約ともいいます）は、慶応二（一八六六）年正月のことでした。これによって時代は倒幕へと大きく動き出したと小説やテレビで描かれることがあります。しかし、この密約は倒幕を目指したのではないというのが現在の学界の多数説です。主要な高校の日本史教科書の叙述を見ても、軍事同盟と書いてあっても、倒幕とは書いてありません。

（中略）

幕末期の尊王攘夷論も、幕府が先頭に立って攘夷を行うことを求めました。尊王攘夷を掲げた長州藩は、同時に、朝廷と幕府が一致結合する「公武合体」を望んでいました。この二つも対立的に捉えられる傾向にありますが、国がまとまらなければ攘夷などできませんから、「尊王攘夷」と「公武合体」は対立ではなく、補完しあう関係です。 **C**、「尊王攘夷」「倒幕」ということではありません。それは、当時の様々な史料を冷静に読めば実証できることなのです。

また、元治元年の禁門の変も、禁裏御所に向かって攻撃をしかけた長州藩が打倒対象としたのは京都守護職の松平容保（会津藩）でした。会津藩は幕府サイドですから倒幕も同じだと思いかもしれませんが、長州藩では会津藩と江戸の幕府を明確に分けています。

このように「倒幕」という言葉が、実際以上に **③**「一人歩きして、幕末とイコールで結んで考える傾向には問題があるのではないのでしょうか。

II

では、薩長が倒したのでなければ、なぜ幕府は倒れたのかという問いが生じます。これを考えるときに興味深いのは、旧幕府関係者が幕府崩壊を指してよく使用した「瓦解」という言葉です。例えば、江戸城無血開城で有名な勝海舟や、明治期に政財界で活躍した渋沢栄一などの有名な旧幕臣だけでなく、一般には無名の旧幕臣まで使用例が見られます。

『広辞苑』で「瓦解」を調べてみると、屋根瓦が崩れ落ちることを例に、「一部の崩れから全体が崩れること」とあります。その場合、内部の構造上の不備によるのか、外からの衝撃なのかで原因は分かれるでしょうが、「倒れた」というより「瓦解」というほうが、何となく自ら崩れていくようなニュアンスが感じられませんか。 **④**この言葉は、辞書の説明では尽くされない、歴史的な経験が色濃く反映したもののように感じます。

慶応三年一〇月の徳川慶喜の大政奉還などを考えると、実際に幕府は自ら崩れたとも言えるわけですが、大政奉還にいたるまでには、様々なことがあります。幕府はペリー来航から始まる政治の流れのなかで、徐々に力を失っていき、最終段階で倒幕の動きができて、その圧力もあつて政権を放棄します。倒幕の圧力に屈したのだから、倒されたも同じだという考えもあるでしょう。しかし、このとき、慶喜は側近に対して、決断が一年遅れたと述べたという記録があります。倒幕運動が起こる前に、政権放棄への道筋は、すでに敷かれていたのではないのでしょうか。

それに関連して、旧幕臣で明治期にジャーナリストとして活躍した、福地源一郎（桜痴）という人物が書いた『幕府衰亡論』（明治二五年）という本があります。これは、維新史を敗れた幕府の視点から論じた先駆的な著作として有名です。「衰亡」という言葉、またその内容を見ても、幕府自身に崩壊の原因を見ようとする視点が示されています。この福地の著作には、^⑤現在でも学ぶことが豊富にあるのです。

（山口輝臣「はじめての明治史」より）

（注1）「薩長」……「薩摩藩と長州藩」の略称。

（注2）「大政奉還」……江戸幕府の徳川将軍が政治の権利を朝廷（天皇）に返した出来事。

（注3）「ポスト」……「ポスト」の形で「その後」「の次」の意。

（注4）「禁門の変」……蛤御門の変。長州藩が朝廷での勢力拡大を狙って起こした武力闘争。

問一、——線①「倒幕派は準備していた軍事行動を中止して、戦略の練り直しを迫られました」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から六字で探し、抜き出して答えなさい。

徳川慶喜が政権を放棄して、六字 になったから。

問二、A C にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

ア、要するに イ、しかし ウ、また エ、したがって

問三、I にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、観察 イ、象徴 ウ、解明 エ、定義

問四、——線②「慶喜と側近は、幕府を復活させる目的で戦ったとは言えないのです」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、薩摩藩や土佐藩の軍事力には敵わないと悟り、自らの保身を優先したから。
イ、国内で争うことにより、外国からの侵略に対抗する力を失うと考えたから。
ウ、既に政権の放棄を決意しており、薩摩藩や土佐藩に対抗する意味はないから。
エ、「公議」に賛同する意志を示し、公家や大名の印象を良くしたかったから。

問 五、——線③「一人歩き」とありますが、ここでの意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、自らの意志で行動すること。
- イ、当初の意図から離れること。
- ウ、他人の力を借りないで行うこと。
- エ、世間の多くの人に広まること。

問 六、

Ⅱ に入る見出しとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、幕府の視点からの倒幕
- イ、幕府が目指した真実
- ウ、幕府を倒した真犯人
- エ、幕府は自ら崩れた

問 七、——線④「この言葉は、辞書の説明では尽くされない、歴史的な経験が色濃く反映したもののよう感じます」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「瓦解」とは一部の崩れから全体が崩れることであるが、なにかきっかけで幕府が崩壊したかを明確には説明はできないから。
- イ、「瓦解」とは一部の崩れから全体が崩れることであるが、無名の旧幕臣でも明らかに幕府が崩壊した原因が分かっているから。
- ウ、「瓦解」とは一部の崩れから全体が崩れることであり、一度崩れ始めると誰にも止めることが出来ないから。
- エ、「瓦解」とは一部の崩れから全体が崩れることであり、その一部から幕府が崩壊した真実を知ることができるから。

問 八、——線⑤「現在でも学ぶことが豊富にあるのです」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、一般的に話されている説と異なり、新たな視点で幕府の崩壊を論じているから。

イ、一般的に話されている説と異なり、著者の意見が多く含まれ新たな視点に気がつけるから。

ウ、幕府の崩壊は現代にも通じる問題であり、自分自身にも起こりうる問題として考えるべきだから。

エ、幕府の崩壊は現代にも通じる問題であり、現代の諸問題の解決の糸口にもつながるから。

問 九、——線X「幕府は本当に薩長に倒されたのでしょうか」とありますが、この問いについて筆者はどのように考えていますか。文章中の言葉を使って三十字以上四十字以内で答えなさい。

④ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、文章中の①～⑥は形式段落の番号を示しています。

① 新たな舞台に立つ人たちに、励ましの言葉が送られる季節である。各地の大学で入学式が開かれた。学長らは何を新入生に語りかけたのだろうか。式辞のなかに、① いまという時代を探してみた。

② 「レポート作成に際して使用することなど、ゆめゆめ てください」。話題のチャットGPTなどの人工知能について、信州大の学長はそう強調した。「簡単に得たものは、またたく間に失われる」。新たな技術を学問にどう取り入れるか、どの大学も悩ましいところだろう。

③ コスパならぬ、② タイムパフォーマンス時代に対する懸念も示された。「タイパで得た知識で十分か」と広島大の学長。動画の早送り視聴など、効率優先の風潮への疑問である。③ アインシュタイン (注2) といわく「重要なことは、③ 問うのをやめないことだ」と。

④ コロナ禍によるマスク制限などが4年ぶりに解禁された式典も多かった。京都大の総長からは、いまこそ「海外留学を」との呼びかけも。米国の研究生活が「私の人生の軌道に決定的な影響を与えた」。インターネットでは得られない異文化体験を大切にしよう。

⑤ 地球温暖化、ロシアのウクライナ侵攻など、激動する世界の明日は見通せない。立教大の総長は「固定化された一つの物差しでは、もはや生きていくことはできない」と語った。「異なる価値観や考え方を理解するために、物差しを増やして」。

⑥ はて、自分は入学式でどんな言葉をもらっていたか。ボーツとしていた記憶しかないのが、悔やまれる。

(朝日新聞「天声人語」より)

(注1) 「コスパ」……………「コストパフォーマンス」の略。支出した費用に対して得られる満足度の割合のこと。

(注2) 「アインシュタイン」……………二十世紀の物理学者。

問一、——線①「いまという時代」とありますが、この文章から読み取れるその特徴は何ですか。その説明として適当でないものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、学生自身の思考力を使うべき大学からの課題に対して、新しい技術に頼って簡便に済ませようとする。
- イ、インターネットが発達し、簡単に情報が手に入るようになったからこそ、多様な価値観が必要になった。
- ウ、技術の発達により今まで時間をかけて行っていたものを効率よく行うタイムパフォーマンスの時代になった。
- エ、多様性の時代になったので、多くの大学の学長や総長が様々な考え方を入学式で学生に示すようになった。

問二、にあてはまる言葉を四字で考えて答えなさい。

問三、——線②「タイムパフォーマンス」とほぼ同じ意味の表現を文章中から四字で探し、抜き出して答えなさい。

問四、——線③「問うのをやめないことだ」の具体例として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、算数の宿題で計算の結果に自信がなかったので同じ問題を探して答えを確かめた。
- イ、国語の教科書に読めない漢字があったので先生に質問してその答えをノートに書いた。
- ウ、社会の授業で習った歴史のできごとがなぜ起こったのか自分なりに理由を考えた。
- エ、理科の実験で教科書とは異なる数値が出たのでインターネットで調べた数字を覚えた。

問五、この文章の構成として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。



